

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2025

2月中旬～3月中旬

--- 季節のおすすめ散策コース (ゆっくり歩いて1時間)
--- おてがるコース (ゆっくり歩いて30分)



いきもの



ニホンアカガエル(卵) (アカガエル科)
天敵の少ない冬に産卵するカエル。田んぼや水路の中に卵が探してみよう。そして、オタマジャクシになって動く様子を観察しよう。



オオムラサキ(タテハチョウ科)
冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。



ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)
成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下の落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中突起は3対です。



ジョウビタキ(ヒタキ科)
橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的な平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。



ヨモギ(キク科)
早春から晩秋まで年中みられる野草。よもぎ団子にして食べたり、薬として飲んだり、お灸の材料にもつかわれます。



ツクシ(スギナ)(トクサ科)
ツクシの正体は、スギナなんです。胞子で増える、シダ植物の仲間です。ほろ苦いその味は春の味覚として食べる楽しみもあります。



フキ(新芽)(キク科)
いわゆる「フキノトウ」。早春の風物詩で、フキ味噌や天ぷらにして食べられます。



ヒメオドリコソウ(シソ科)
上のホトケノザとよく似ていて間違えられます。こちらはハート型の葉がたくさん重なってついていて、よ〜く観察してみてください。



ヤブツバキ(ツバキ科)
ツバキには様々な種類がありますが、自生のツバキといえばヤブツバキのこと。メジロが蜜を吸いにやってくることもあります。



タネツケバナ(アブラナ科)
ナスナによく似ていますが、茎からのびる果実の部分の形が違います。晴れた日、はちばちと音を立てて、たねを飛ばします。



ウメ(バラ科)
うめ林にはさまざまな品種のウメが植えられています。紅花、白花、八重咲き、一重咲き。お気に入りの木を選んでみてください。



ナスナ(アブラナ科)
春の七草の一つ。茎からのびる果実の部分がかわいいハート型をしています。その形が三味線のバチにみえることから「ハンペン草」とも呼ばれます。



コハコベ(ナデシコ科)
春の七草のひとつ。雑草の代表的な存在。小さな白い花を探してみよう。



ホトケノザ(シソ科)
春の七草とよく間違えられますが、現在のホトケノザはこちう。葉の形が「仏の座」に見えることからこの名がつけました。

春の味覚